

研究課題	「コロナ禍から学ぶ」サステナブルな未来
副題	日豪字比 4 か国 SDGs 共同学習
キーワード	SDGs 国際交流
学校／団体名	大阪府河内長野市立三日市小学校
所在地	〒586-0034 河内長野市 上田町 380
ホームページ	<a href="http://www.kawachinagano.ed.jp/mikkaichi/">http://www.kawachinagano.ed.jp/mikkaichi/</a>

## 1・研究の背景

コロナ禍の今、世界のニュースが伝える現実には SDGs が示す課題そのものと言える。複雑な問題が連鎖的に、さらに同時多発的に起きている。行動自粛により、企業活動が制約を受け雇用や貧困の問題につながり、自殺者も増え、特に女性の増加が著しい。現実社会は持続不可能な方向に進んでいる。このような複雑に絡み合った社会に対応できる人材の育成を目指すには、やはり主体的・対話的で深い学びを経験させる必要がある。また狭い教室の中だけの閉鎖的な対話でも、十分とは言えない。グローバルな観点から物事を考えられる国際人の育成が求められている。情報機器の進歩と GIGA スクール構想により、学校の ICT 環境は、はるかに充実し、国際交流授業は以前より随分と取り組みやすい状況になっている。この環境を生かし、2021年 11 月 16 日に、本校では 5 カ国での音楽交流授業を行った。この授業に参加いただいた、フィリピンのアンジェリカム学園、そして日豪語学協働学習の相手校のセントポール校やウクライナから避難して来られた小学校教師のナターシャさん達で、今回 SDGs をテーマにパンデミックを克服し、自分たちが生きる明るい未来を目指す対話の場とする目的で協働学習を計画した。

## 2・研究の目的

「持続可能な社会の創り手」となる子どもの育成を目指し、新しい指導要領が 2020 年度からスタートした。だが、コロナ禍で学校現場は学習の授業時数の確保に、日々追われている。さらに国は一人一台の環境整備を進めるも、その対応に学校は振り回されている。しかし、指導要領の改訂に込められた思いを読んでも「これからの社会が、どんなに変化して予測困難な時代になっても、自ら課題を見つけ、自ら学び、自ら考え、判断して行動し、それぞれに思い描く幸せを実現してほしい」とある。だからこそ、コロナ禍を通して SDGs の学習に取り組もうと考えた。ただこの課題は、1 つの学校、しかも日本国内だけの取り組みでは深い学びには繋がらない。そこで 3 か国での協働学習に挑戦したいと考えた。地域は戦前のウクライナやオーストラリア、そして島国フィリピンを計画した。それぞれの国が抱える課題には、大きな違いがある。サステナブルな未来に向けて、国内だけでなく海外との協働学習を通じてそれぞれの生活や環境が異なる国の課題について知り、それぞれの国での取り組みに関心を持ち、自分たちの生活と環境を見直す。そんな国際協働学習に取り組みたいと考えた。

### 3・研究の経過

時期	取り組み内容	評価のための記録
2022年 4月～7月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・協働学習参加協力校との調整作業。</li> <li>オーストラリア・フィリピン・ウクライナ避難民のナターシャさんおよび通訳支援の方々との情報交換。</li> <li>プログラム実施計画の調整作業。</li> <li>・資料作成に必要なタイピング練習やソフトを使ったプレゼン作成方法の学習。</li> <li>・本研究に関わる備品の購入 テレビ会議と発表用動画作成専用タブレット端末の購入</li> <li>・SDGs やサステイナブルな未来についての交流にむけての発表スライド資料の作成。 SDGs の 17 の目標から優先的に取り組みたいと思う項目を、児童たちに選んでもらう。選んだ項目が今回のコロナ禍によって、どのような影響を受けたかを調べ、発表資料を作成する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・メールの記録</li> <li>・授業写真</li> <li>・授業写真</li> <li>・児童作成スライド</li> <li>・資料作成冊子</li> </ul>
9月30日	・ウクライナ小学校教師ナターシャさんとの SDGs 意見交流会 1 回目	<ul style="list-style-type: none"> <li>・交流の様子の写真</li> <li>・児童作成スライド</li> </ul>
10月7日	・ウクライナ小学校教師ナターシャさんとの SDGs 意見交流会 2 回目	<ul style="list-style-type: none"> <li>・交流の様子の写真</li> <li>・児童作成スライド</li> </ul>
11月4日	・オーストラリア セントポール校との SDGs 意見交流会 1 回目	<ul style="list-style-type: none"> <li>・交流の様子の写真</li> <li>・児童作成スライド</li> </ul>
11月9日	・オーストラリア セントポール校との SDGs 意見交流会 2 回目	<ul style="list-style-type: none"> <li>・交流の様子の写真</li> <li>・児童作成スライド</li> </ul>
2023年 2月3日	・フィリピン アンジェリカム学園との SDGs 意見交流会	<ul style="list-style-type: none"> <li>・交流の様子の写真</li> <li>・児童作成スライド</li> </ul>
3月	・児童アンケート、1年間の振り返りを実施	<ul style="list-style-type: none"> <li>・児童アンケート結果</li> <li>・振り返り用紙</li> </ul>

#### 4・代表的な実践

まず、本校5年生の児童に SDGs の概要を知り、17 の目標から優先的に取り組みたいと思う項目を選んでもらった。選んだ項目が、今回のコロナ禍によってその国ではどのような影響を受けたかを調べ、そこからの10年後の持続可能な未来について考え、発表資料を作成してもらった。作成した資料をお互いが閲覧できるように、クラウドでの共有ホルダーを作成して、この2年間に自分たちの日常生活がコロナ禍で受けた影響について、2か国の児童達やウクライナの小学校教師ナターシャさんとネット上での情報交換を行った。そこから、国や地域によって異なる文化やSDGsに対する課題があることを理解し、その対応に大きな違いがあることを学んだ。



また、取り組んだ内容や児童作成スライド、テレビ会議の動画等を2022年11月20日(日)河内長野市国際交流会 KIFA 主催「世界の文化ごった煮」にてブースを設け、様々な方々に発信することも行った。児童作成のSDGsクイズも行い参加型とした。今回の各国での学習状況を伝え合い、それぞれのSDGs教育への意識を多くの方に知ってもらえるきっかけをつくることができた。(期間限定公開ホームページを作成、海外児童作成物・本校児童作成物の全てを掲載)

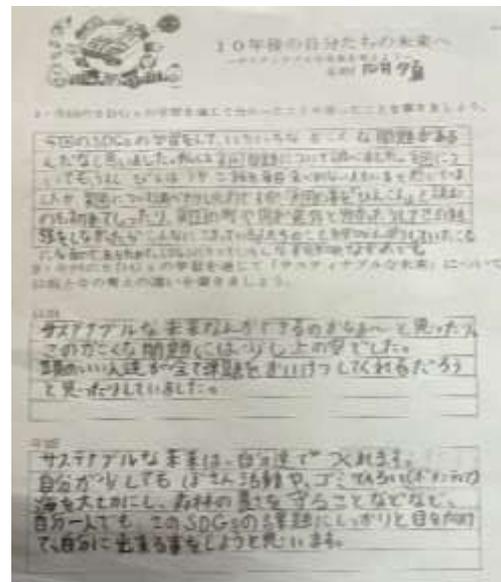
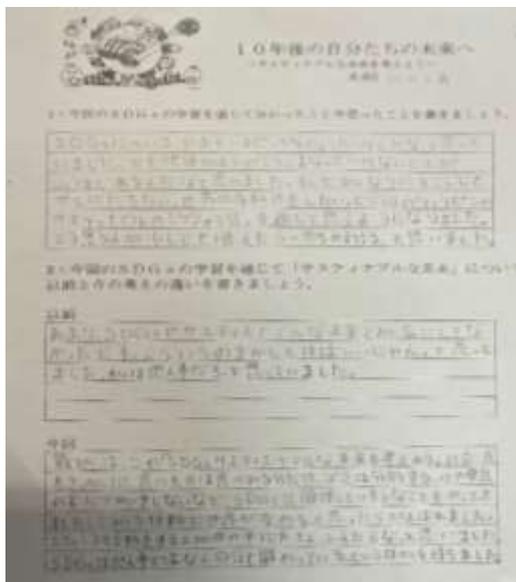
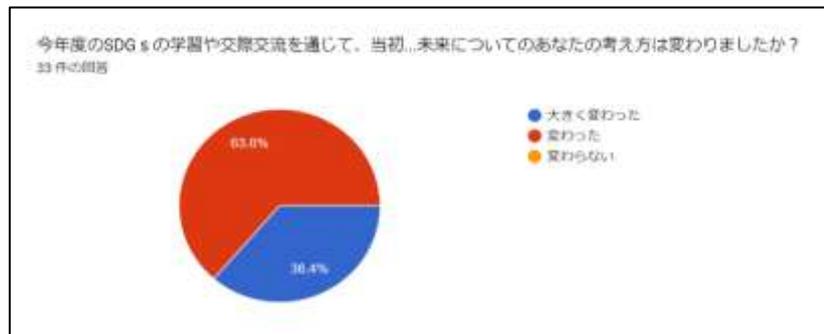


年が明けた3学期の2月3日(金)にはフィリピンのアンジェリカム学園とSDGs学習について交流することが出来た。本校児童グループ作成のスライド発表、フィリピンの子どもが考える、気候変動を受けやすい自分達の国で、よりよく暮らしていけるための未来都市についての構想に基づいて創作した模型と、取り組んだ意図等の動画を見せてもらえる機会となり、大変刺激を受けた。両国が同じ島国で、地震の影響を強く受けることも学んだ。



最後に、本研究のまとめとして学習アンケートや振り返りを行い、一年間の変容を確認した上で、もう一度「10年後の自分達が生きていくうえでのサステナブルな未来」について考え、意見や気持ちをまとめた。

児童達からは、学習前は自分達が取り組まなくても、誰かがやってくれるという考えから、学習後は、小さなことでも1人1人が考え取組み、そして継続する大切さを学んだ意見が多くみうけられた。



## 5・研究の成果

### (1)助成金の活用による成果

#### iPad アップルTV

今回は助成金によって iPad を購入し、主に活用した。学習における資料作成や児童たちのスライド作成等の活動の記録用の写真や動画の撮影保存、各クラス間でのやり取りの様子や情報共有の為、そのデータ交換に大変重宝した。スライドの英訳に関しても、本校の英語が堪能な先生にチェックしてもらう時にも送受信で重宝した。また必要な SDGs の動画や画像などの映像提示に本校ではアップルTV を活用していたが、故障した為急遽必要分を補充した。今後も年間の発表を提示するとき等にも活用していきたい。



### (2)授業実践から見えた成果

#### スライド・交流を通じて

コロナ禍の中、SDGs の学習の取り組みは停滞している。しかし、2030 年のゴールに向け無為に過ごすことはできない。また地球規模の課題に 1 つの学校、国内だけの学習ではゴールは見えてこないと考えていた。今回の多様な環境の国々で暮らす子ども達や大人との協働学習を通じて、子ども達の意欲・関心を高めるだけでなく「世界と比較」することが出来、自分たちの暮らしやこれからの生きていく自分達の未来について考えることが出来たことが本研究の最大の成果であると考えている。



## 6・今後の課題・展望

### (1)これからの共同学習について

これからの学習ツールとして、クラウド上のデータ共有機能は大きな可能性があると考えている。今回この機能を使って、コロナ禍においても地域や時差を超えての協働学習に挑戦することが出来、島国である日本の学校がこれによって海外の学校との国際交流授業を発展させる大きな手掛かりになったと考えている。今後も様々なテーマへの協働学習にも利用でき、大きな波及効果があると考えている。

### (2)児童アンケートや最後の感想から

三学期に行った児童のアンケート調査から一学期当初に比べて大きな心境の変化があったといえる。当初はこれまでニュース等で SDGs は何かしら知っている様子であったがどこか他人事のように捉え

ている様子であった。しかし、本研究の活動を通じて、スライド作りを通じて SDGs について深く知っていく過程や、国際交流を通じて他国の人と関わる機会や相手の考えを聞いたり、自分たちの考えや意見を伝えあうことによって実感が深まり、より自分事としてサステイナブルな未来に考えることが出来たと強く実感している。

#### 7・おわりに

日本の学校現場が海外との交流窓口を大切にすることは、後々に様々な教育活動、とりわけ SDGs の学習のカリキュラムの充実につながるものと期待している。テーマを持って年間を通して、海外校との計画的な交流授業を推進することで、教育の情報化と国際化、何より SDGs の最終目標に繋がるものと信じている。

#### 8・参考文献

○SDGs ってなんだろう？(youtube 動画)

<https://www.youtube.com/watch?v=wSQYKS7rRKY>

○SDGs ジャーナル(youtube チャンネル)

<https://www.youtube.com/@SDGsJournal/streams>

○パナソニック キッズスクール(HP)

<https://holdings.panasonic.jp/corporate/sustainability/citizenship/pks/sdgs.html>

○文部科学省 STI for SDGs

[https://www.mext.go.jp/a\\_menu/kagaku/kokusai/sdgs/1408716.htm](https://www.mext.go.jp/a_menu/kagaku/kokusai/sdgs/1408716.htm)

○世界がぐっと近くなる SDGs とボクラをつなぐ本

監修 池上彰